

# 尾瀬・燧ヶ岳山行報告

【山行日】2021年 7月 17～18日(土日)

【集 合】栃木市運動公園P AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 15,000円

【メンバー】CL:鈴木 SL大西

関、廣瀬、福島、藤原、

17日 快晴 御池登山口より広沢田代、熊沢田代を經由し、俎嵯・柴安嵯に登頂後見晴十字路に下り、尾瀬小屋に宿泊。

栃木市運動公園P4:00＝御池 P6:30/6:55～広沢

田代 7:50～熊沢田代 8:40/8:50～俎嵯

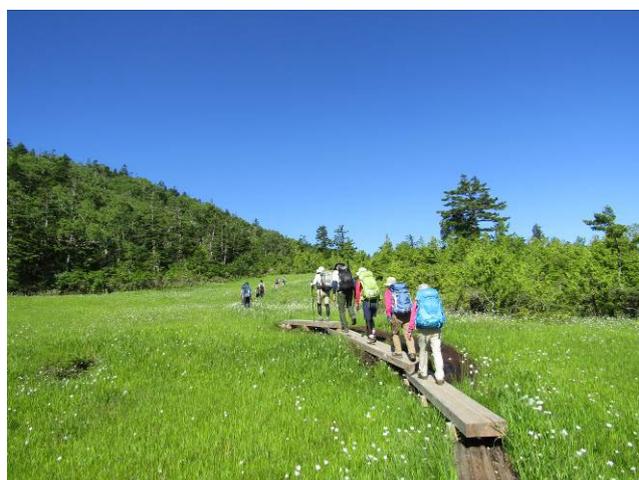
10:30/10:50～

柴安嵯 11:50/12:30～尾瀬小屋 15:15

山行アンケートで「燧ヶ岳を尾瀬ヶ原に宿泊して登りたい」とリクエストがあり、今回のコースを計画した。燧ヶ岳に登るコースはいくつかあるが、御池から広沢田代と熊沢田代を經由して登るコースは魅力的である。



朝4時に栃木市運動公園を出発し、予定より早く御池の駐車場に着く。駐車場は有料で1回1000円、1泊でも1000円で止められる。準備を整え、トイレを済ませたらストレッチを行い出発する。駐車場の奥から階段を下り、広い板張りの遊歩道を進むと燧ヶ岳への分岐に出る。分岐を左に進み樹林帯の中の木道を登って行く。最初は傾斜が緩やかな道だが、500mほど進むと傾斜が増してくる。岩の間の泥土の道を、滑らないようにゆっくり登って行く。しばらく我慢しながら歩き、高度差200mほど登ると灌木帯になり視界が開けてくる。平坦な木道歩きとなり、広沢田



代に到着する。緑の傾斜湿原にはキンコウカの黄色い花が咲き始め、ワタスゲの穂綿が風になびいて美しい。休憩所のベンチで休憩し、絶景を楽しみながら果物を食べ足を休める。緩やかに湿原を登って

行き、右にカーブしながら登ると湿原が終わり、再び樹林帯に入る。オオシラビソの中を岩と泥土の急坂を登り、グングン高度を上げて行く。丈の低いクロベの木が多くなると小さなピークを越え、木道をほんの少し進むと眼下に熊沢田代が広がっている。緑の湿原に向かって階段状の木道を下り、湿原の中ほどにあるベンチで休憩を取る。西側に展望が開け、湿原ののびやかな広がりか印象深い。ここから燧ヶ岳に向かって湿原の階段を登って行くが、両側のワタスゲの白い穂綿がとても美しい。振り返って見える熊沢田代の緑と池塘が、とにかく美しいと感じられる。左に山裾を巻くようになると木道は終わり、土の登山道になる。



左に斜上して道が続いており、途中何度か尾根を廻り込み、その都度小さな沢を横切って行く。標高2100m付近から、沢沿いの道に入って直上するようになる。さらに登ると溝状の中を登り、雪渓が現れる。雪渓の中間まで登ると、F島さんが腹痛で登れないという。

ザックを持ってあげて雪溪の上まで登り、ここからは SL と2人はゆっくり登ることにする。4名は先行し



オオシラビソの樹林帯を抜け、荒れた崩壊地を過ぎると岩がゴツゴツした登りとなる。大岩の間を抜けて登ると、やがて燧ヶ岳の一等三角点がある山頂、俎峯に到着する。石祠がある山頂は大勢の登山者が休憩しており、尾瀬沼や会津駒ヶ岳の眺望が素晴らしい。ゆっくり休憩したが2人は登ってこないで、待ち合わせ場所の柴安峯まで行くことにする。

ところがここで事件が起きてしまった。我輩は後ろにH瀬さんが付いて来ているので、そのまま下って行ったが鞍部に着くと女性2人が来ない。

しばらく待つが来ないので、山頂からミノブチ岳

へ下ったと思いザックを鞍部に置いて俎峯に登り返した。俎峯に着くと丁度2人が登って来てご対面。タイミング良くゆっくり組の2人も登って来て、一緒に柴安峯に向かい事なきを得た。1時間遅れて柴安峯に着き、全員揃ってランチタイム。柴安峯の展望は素晴らしく、尾瀬ヶ原から至仏山や会津駒ヶ岳、会越の山々の大展望が広がる。絶景を見ながらのランチは美味しく、様々な出来事も全て忘れさせてくれた。展望を楽しみ、記念写真を撮ったら見晴新道

を下って見晴十字路の尾瀬小屋に向かう。山頂から南の尾根を下るが、ザレた急坂なので慎重に下る。赤ナグレ岳との谷あいまで下ると樹林帯の道になり、西に向かって下る道となるが、泥濘と倒木でとても歩きにくい。苦戦しながら1600mくらいまで下ると傾斜が緩くなり、シラビソの針葉樹林帯の中を下って行く。山頂から合目標識があり、1合目で尾瀬ヶ原から尾瀬沼への道に合流する。分岐を右に進み、木道を少し進むと山小屋が数件建つ見晴十字路に着く。尾瀬小屋は、尾瀬ヶ原に一番近い右側に建つ小屋。受付を済ませ、男女2部屋に分かれて案内される。荷物を整理したら風呂に行き、汗を流して湯船に浸かり疲れを取る。風呂から上がると外のテラスに出て、尾瀬ヶ原の景色を見ながら反省会が始まる。



皆さん尾瀬に泊るのは初めてのようで、こんな素晴らしい場所に泊れるなら又来たいとご機嫌だった。5:30分から夕食になり、とても美味しいと完食していた。

夕食が済んだら部屋に戻り、いつものようにすぐ布団にもぐりこんで就寝する。

**18日 快晴 尾瀬小屋を出発し尾瀬ヶ原を歩いて竜宮から東電小屋を経由し、燧裏林道を通って平滑ノ滝、三条の滝を見ながら御池に下山する。**

尾瀬小屋 7:00～竜宮 7:25～東電小屋 8:20/8:30～  
温泉小屋 9:00/9:15～平滑ノ滝 9:30/9:40～三条の滝  
10:10/10:10～兎田代 10:40～裏燧橋 11:45/12:15～  
上田代 13:10/13:20～御池 13:40/13:50＝  
道の駅「たじま」＝栃木市運動公園P17:00

尾瀬は5:30分起床とゆっくり寝ていられる。今日も快晴で青空が広がり、雲一つないピーカンだ。

5:40分から食堂前に並び、一番で朝食をいただく。朝食もご飯がとても美味しいと、皆さん完食した。



小屋の前で出発の準備をしていると、尾瀬小屋のイケメンのお兄さんが出て来て写真を撮ってくれる。「今の若い人は皆感じがいいよね！」と女性達はお機嫌だった。ストレッチを済ませたら、お兄さんにお



礼を言って出発する。まずは尾瀬ヶ原を歩いて竜宮に向かい、尾瀬ヶ原の高山植物を楽しんだ。キンコウカやタテヤマリンドウ、トキソウやサワラン等の花々が目を楽しませてくれる。竜宮手前の川沿いにはバイケイソウの花がとても綺麗に咲いていた。咲いたばかりのバイケイソウは、驚くほどきれいで「こんなに綺麗な花なんだ〜」との声が聞こえてきた。竜宮のベンチで休憩し、至仏山と燧ヶ岳の景色を楽しんだらヨッピー橋に向かう。木道の両側にヤマドリゼンマイが茂り、淡い緑の葉の間にニッコウキスゲの黄色い花がアクセントになっていた。ヨッピー橋を渡って東に向かい、小湿

原を通過して少し登った所に東電小屋が建つ。東電小屋で休憩し、トイレを借りる。東電小屋から樹林帯の中を少し進むと東電尾瀬橋を渡り、湿原の木道を進むと東電分岐で燧裏林道と合さる。左に燧裏林道を進み、平坦な木道歩きが続く。赤ナグレ沢を渡り赤田代の縁を進むと、赤い屋根の温泉小屋に着く。小屋の先のトイレまで行き、トイレ前のベンチで休憩しゼリーや菓子をいただく。ここから木道を進むと直ぐに段吉新道との分岐になり、段吉新道を右に分けると下りになる。次第に傾斜が急になり、木の根や岩に掴まりながら下って行く。急な木の階段を降りると、大きな岩の上の平滑ノ滝展望台に着く。眼下に見える平滑ノ滝は、その名の通り岩盤の上を滑るように流れ落ちる滝である。展望台から少し戻り、左に下ると小さな沢を渡り、濡れて滑りやすい道を進む。アップダウンを繰り返して進み、オオソリ沢を超えてわずかに登ると三条ノ滝分岐に出る。右に進むと御池への道だが、そのまますすぐ進み三条ノ滝展望台に向かう。細い岩の尾根を進み、急な木の階段を2箇所降りると展望台に出る。落差97m水量は日本一と言われ、轟音とともに只見川を流れ落ちる様は豪快そのものである。しば



し暑さを忘れ、豪快な滝を見ながらミカンをいただき疲れを癒す。ここから分岐まで戻り、分岐を左に進んで兎田代に向かう。今まで下った分を一気に取り戻すように急登が続く、今日のコースで最もきつい登りである。20分程頑張ると道も緩やかになり、木道が見えてくると兎田代に着く。すぐに渋沢温泉小屋への分岐に出てそのまま直進し、少し進むと段吉新道と合さる。小沢を渡りながら樹林帯の道を緩やかに登り、シボ沢に掛かる吊橋を渡った所でランチタイムとする。丸太のベンチに分かれて座り、お湯を沸かしてカップ麺とパンをいただいた。ここからは田代が次々と現れ、燧裏林道で最も楽しいコースである。すぐに現れ

るのは天神田代で、右手上方には燧ヶ岳が見える。ここからしばらくゆるやかに登り、左に曲がりながら出戸深沢を渡るとノメリ田代。小さい田代だが、ワタスゲの穂綿が風に揺れてとても美しい。

右に回り込むと横田代と続き、入深沢を渡ると上田代に着く。裏燧では最も広い湿原で、ゆるい傾斜湿



原の真ん中を木道が貫いている。中間にあるベンチで最後の休憩を取り、景色を楽しみながら残ったおやつをいただいた。正面には大杉岳、振り返ると平ヶ岳が望める絶好のロケーションである。ここから少し下って姫田代を過ぎ、林の中のやや急な坂をジグザグに下ると御池田代の端に出る。左に湿原を見ながら進み、燧ヶ岳からの道と合さると間もなく御池の駐車場に着く。車まで戻り、O嬢が用意した冷たいコーヒーとポカリスエットで喉を潤し、靴を履き替えたら帰路につく。

途中、道の駅「たじま」に寄って買い物し、予定より早く栃木市運動公園に帰着した。

梅雨明けの快晴の天气に恵まれて、燧ヶ岳の眺望と燧裏林道の滝や田代を楽しみ、思い出に残る山行となった。

